

例年、春先は昼夜・日々の寒暖の差が大きく、水稲では凍霜害や高温障害といった被害の発生が予想されます。『苗半作』と苗の良否が作柄に大きく影響します。基本技術の励行、細かな管理を行い、健苗の育成に努めましょう。
また、播種・田植えの早期化（特に南部地区）、気象の温暖化等により近年胴割米の発生が多く見られますので、播種及び田植え時期を適期に行い良質米生産に努めましょう。（中野市の播種目標 4月20日～、田植目標 5月15日～6月10日、但し「風さやか」の場合は5月15日～5月30日）

1. 種籾の準備

※良品質生産する上で**毎年の種子更新が重要**となっています。（種子銘柄証明のためにも採種圃産種子を使用して下さい。）

- (1) 選種：自家産種子は、純度が低く充実が悪く発芽力が劣り、苗が生育不良になるため、採種圃産種子を使用して下さい。塩水選後は良く水洗いをして下さい。
自家産種子を使う場合は種子消毒や浸種・催芽温度に十分注意をしてください。

〈塩水選比重〉 うるち 1.13（水10ℓに対し塩2.0kg）
もち 1.08（水10ℓに対し塩1.3kg）

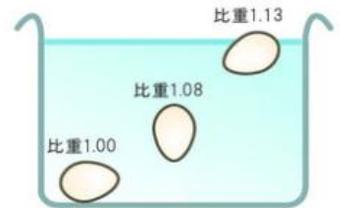


図1) 生卵による比重判断

- (2) 種子消毒 「**残液は魚毒性が強いので直接河川や用水等に絶対流さない**」

対象病害	薬剤名(使用回数)	濃度	浸漬時間	水量 100ℓ当り薬剤量
ばか苗病 もみ枯れ細菌病	テクリードCフロアブル(1回)	200倍	24時間	500ml

※「もみ枯れ細菌病」が心配される場合は、播種時カスミン粒剤を均一に混ぜた覆土を使用する。（覆土1L当り15～20g）

注意事項

- 水温は10～15℃程度とし、低水温での種子消毒は避ける（特に、にじのきらめきは発芽率低下の恐れ）
- 種籾1kgに対し薬液1.7～2ℓで処理する。
- 浸漬中は、時々攪拌し水温10℃以上とする。テクリードCフロアブルは消毒後濡れたまま浸種可能。
すぐに浸種しない場合は陰干しし、乾かしてから浸種する。
- テクリードCフロアブルで種子消毒をする場合、薬液は3回ほど繰り返し使用できます。
※繰り返し使用する場合は底に成分が溜りやすいので、使う度にかく拌をし、薬液量が不足する場合は必ず補充して下さい。
- 薬液必要量 テクリードCフロアブル（100ml） ※200倍希釈で使用する場合、1本で種籾10～12kg分を消毒できる。
- みのる式の場合は根上がり対策として浸種直前の種子消毒とし風乾は避け、種子消毒後はそのまま浸種をする。

- (3) 浸種 「水温は10～15℃」

※**昨年的高温により発芽がバラつきやすいです、高温短期間での浸種は発芽揃い悪化につながるのを避けましょう**

浸漬積算温度は100℃を目標に**浸漬水温10℃で10日間程度**十分に行う。（にじのきらめきは積算150℃を目標とする）

浸種水温が5℃以下だと発芽率や発芽揃いに悪影響、20℃以上ではばか苗病の発生が助長される。

浸種の水量は種子の2倍以上とし種子の位置は時々上下の入れ替えを行うと催芽のバラツキが少なくなる。

浸種期間中は3日目から1～2日ごとに新しい水に変えること。また、池を利用する場合は停滞水で行うこと。

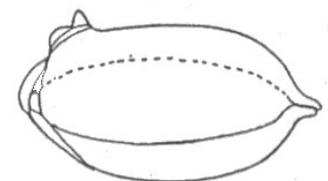
標準以上の高温管理は、ばか苗病の発生を助長するので避ける。

鳩胸状態（芽長1mm）

- (4) 催芽 「**32℃以上でもみ枯れ細菌病のリスク急激に増大**」

浸種後、**28℃のぬるま湯**に一昼夜程度浸漬して、芽長1[㍉]（鳩胸）程度に催芽させる。

一昼夜で催芽が揃わない時は、新しい湯に取り換えて催芽が揃うまで浸種期間を長くする。



播種に最適な催芽（ハト胸）

2. 凍害対策 次の事項を守ってください。

- 苗代の畦は高くし、深水に湛水できるようにしておく。
- 防風施設・温水田を必ず設け、常時満水にしておく。また、降霜の恐れのある時は苗代へ湛水する。
- こも等の保温資材をかけて床内温度の低下を防ぐ。
- 保温資材（着色有孔ポリ及びパオパオ）をはずした後の苗代では、寒い夜は夕方から深水にしつつかけ流しておく。
また、苗代及び温水田の畦畔からの漏水に注意する。
- 折衷方式のビニールトンネルでは、夕方から箱上湛水をして保温につとめ翌日排水する。
- もし凍霜害の被害を受けた場合は「葉先が枯れた程度」の場合は、日中浅水、夜間は深水にして回復をはかる。
被害程度がひどくても生長点が凍害を受けていない場合には、苗箱1箱当り硫酸5g程度の追肥をし、生育の促進を図る。

次項もご確認ください

水稻中苗機械田植栽培方針

1. 苗代面積 10アール分の育苗には8~10㎡必要

2. 苗箱の必要量

3.3㎡(1坪)当り栽植株数	60株	65株	70株	75株	備考
10アール当り苗箱数	15~20	17~22	18~24	19~25	1箱当り100~120gは種
株間目安	約18cm	17cm	約16cm	約15cm	1株3~4本植え

3. 箱土と施肥

種類	1箱当り 培土量	苗代1号施肥量		①播種より7~10日前に肥料を施し攪拌する(肥料入培土は不要) ②床土はPH4.5~5.0の壤土を5%目フルイでふるい使用する。砂土・粘土はさける。前年に除草剤を使用した土を使用しない。(培土には覆土1%を含む) ③苗立枯病防除のため1箱当たりタチガレースM粉剤をみのる式は3~4g、有底箱は8g混和する。(播種5日前からは種時)培土には含まれていません ④みのる式の伏床肥料は表層施肥とする。 ⑤覆土が薄いとみ枯れ細菌病を助長するので、粉が十分に隠れるまで行う。
		1箱当り	伏床1㎡当り	
みのる式	2% 2kg	0~10g	150~170g	
有底箱	5% 5kg	30~35g		

※「もみ枯れ細菌病」が心配される場合は、覆土にカスミン粒剤を均一に混ぜて使用する。(覆土1L当りカスミン粒剤15~20g)

4. 播種量

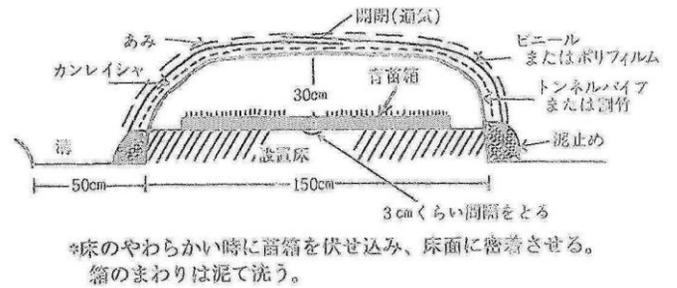
種類	1箱当り播種量	注意事項
みのる式	100g(乾籾換算80g)	催芽籾(鳩胸程度)を均一に播き、有底箱は覆土後十分かん水する。
有底箱	100~120g(乾籾換算80~100g)	

5. 床作り

- 代かき後、床作りする。
- 床面は軟らかいほうがよいので苗箱の伏込当日に床作りをする。
- みのる式は表層2~3cmはトロトロに、その下にはやや大きめの土塊があるのが理想的。

6. 伏込み

- 伏床は、小型トンネルか中型トンネル(アスパラガス用)を使用する。
- 保温資材(温床紙代替)の着色有孔ポリ及びパオパオは高温障害防止のため出芽が確認されたら早めに外す。
- 小型トンネルの被覆用資材は、通常のビニールフィルムにかえてポリネット(天井部分寒冷紗)及びミラーシートでもよい。
ミラーシートは断熱性及び保温力があるため育苗管理しやすい資材。



7. 管理

生育期	実施事項	注意事項
(1) 発芽期	①発芽揃いを良くするために12~32℃内に床内温度を保つ。 ②水位は育苗箱の底面よりやや低めとなるよう加減する。 ③箱土が乾いた場合は、一旦箱上までかん水した後直ちに排水する。	◆発芽揃いまでは過湿や過乾にならないように特に留意する。 ◆発芽揃いに土がもちあがった場合は、一旦湛水するか、またはジョロでかん水して土を落とす。発芽揃いまでに5~6日間を要す。
(2) 1葉期~1.5葉期	①トンネル内の温度は12~25℃を目標に、昼間26℃以上の場合はトンネルを開き、夜間は保温をする。	◆床面が乾燥した場合のみ箱の上まで湛水し、後直ちに排水する。育苗初期(3葉まで)に30℃以上の高温に長時間遭遇させない。
(3) 1.5葉期~3葉期	①水位は育苗箱の底面よりやや低めとなるよう加減する。 ②温度目標12~22℃、昼間床内温度を25℃以上にしない。 ③昼間はトンネル被覆を開いて外気にならず。夜間はトンネルを閉じる。	◆1.5葉~3葉期は離乳期で、高温・低温によってムレ苗・立枯病になりやすい。また、凍霜害の恐れのある場合は、深水にしてビニールを閉じる。
(4) 3葉期	①3葉期以後は、日中天井を広く開いて健苗の育成につとめる。 ②追肥は3葉期頃、肥切れが生じた場合は1箱当り硫酸5gを水に溶かして肥切れ部分に追肥する。	◆植付4~5日前からビニール・カンレイシャを全開して苗を外気にならず。徒長の恐れのある場合は、水位を落とすか間断かん水をする。 ◆凍霜害の恐れのある場合は深水とする。

※みのる式の場合、育苗箱の上まで滞水すると、根上がり・根渡りが助長されます。水管理に注意してください。

8. 苗代日数 本葉3.0~4.0枚、草丈15~20cmを目標に、苗代日数30~35日とする。

※本葉4枚程度が定植適期となります。老化苗での定植とならないよう定植予定日から逆算して育苗をしましょう。

9. 機械移植の初期害虫防除 育苗箱施薬はいずれも1箱当り50gを施薬する。また、使用回数は1回とする。

〈注意事項〉

- 苗箱の上から均一に散布し、莖葉に付着した薬剤を払い落として使用する。ムレ苗、軟弱徒長苗への使用は避ける。
- パティート箱粒剤はニカメイチュウ、イネツトムシ、や黄萎病を媒介するツマグロヨコバイにも有効である。
- ブーンパティート箱粒剤は、葉いもち病、内穎褐変病、もみ枯細菌病(苗腐敗症)黄萎病を媒介するツマグロヨコバイに対して有効。

	施薬 1箱当り	イネミス ソウメイ	イネト ムシ	ニカメイチュウ		イネト ムシ	ツマグロ ヨコバイ	ツマグ ロヨコ バイ	葉い もち 病
				第1世代	第2世代				
ブーンパティ ート箱粒 剤	50 g	○	○	○	△	○	○	○	○
パティート 箱粒剤	50 g	○	○	○	△	○	○	○	○